Sakae Fuji

# プロパンバーナー
# 取扱説明書

このたびは **Sakae Fuji** のプロパンバーナーを
お買い求めいただきありがとうございます。

本製品は「**火**」を扱う製品です。
取り扱いを間違えますと、**やけど・火災等の危害を及ぼす恐れがあります。**取扱説明書の注意事項をよくお読みいただいてからご使用ください。
また、この取扱説明書は**大切に保管**してください。

本製品は日本国内専用です。
海外への持ち出しはしないでください。

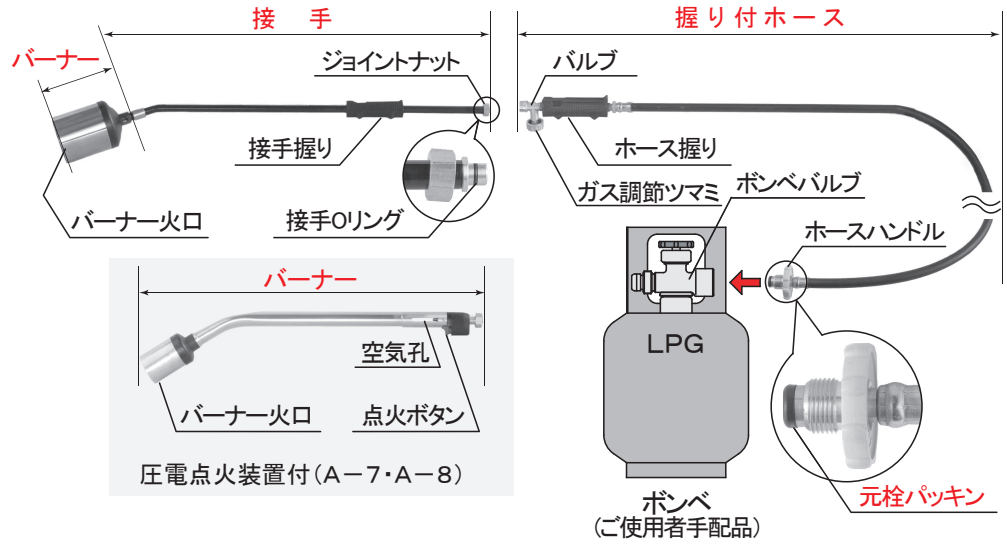
## 絵表示の意味

**警告** 誤った取り扱いをしたときに、死亡や重傷に結びつく可能性のあるもの

**注意** 誤った取り扱いをしたときに、傷害または家屋・財産などの損害に結びつくもの

一般的な注意　一般的な禁止　必ずおこなう

## 各部の名称




※赤字の部品が出荷可能な部品です

## 仕　様

●火炎温度：全機種１，５００℃

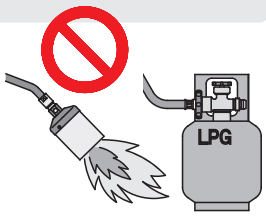
| 品名 | バーナー火口型式 | 口径（mm） | 熱量kW（kcal/h） | 適用接手（長さ） | 適用ホース |
|---|---|---|---|---|---|
| プロパンバーナー | No. 1※2 | φ15 | 0.8（730） | S－130（119mm） | 2m※2 |
| | No. 3B | φ25 | 3.8（3,300） | | |
| | No. 3C | φ25 | 3.8（3,300） | M－100（94mm）<br>M－300（254mm）<br>LS－800（763mm） | 3m |
| | No. 5 | φ35 | 11.6（10,000） | | 5m |
| | No. 6 | φ50 | 24.4（21,000） | | |
| | No. 7N | φ60 | 59.3（51,000） | | |
| | No. 8N | φ75 | 101.2（87,000） | | 10m※2 |
| | No. 10N | φ100 | 151.2（130,000） | | |
| 圧電点火式 | A－7BU | φ60 | 59.3（51,000） | バーナーと一体型専用接手組付済※1 | |
| | A－8BU | φ75 | 101.2（87,000） | | |

※）発熱量は10分間の数値を1時間に換算したものです。
※）上記数値は、当社実験データによるものです。
※1）他のタイプの接手に取り替え及び継ぎ足しは出来ません。
※2）火口No. 1、ホース２m・１０mは受注生産です。納期はお問い合わせください。



## 使用ボンベ取扱上の注意

**使用ボンベの詳しい取り扱い・注意事項等は、使用ボンベ販売店の指示に従ってください。**



炎・熱気接近禁止

### 警告

●炎や熱気をボンベに近付けないでください。
　ボンベ内の圧力が高くなり爆発の原因となります。
●ボンベは風通しのよい場所に置き、転倒しないようにしてください。

### 注意

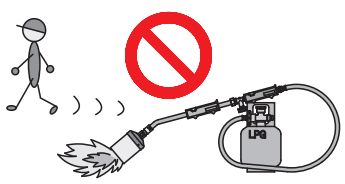
●ボンベに強い衝撃を与えないでください。
●ボンベのガスを吸い込まないでください。酸欠の原因となります。
●ボンベバルブは静かに開閉してください。
●作業終了後及び移動の際は必ずボンベバルブを閉じてください。

## 製品取扱上の注意

### 警告

●ガス漏れ、爆発事故を引き起こす原因となりますので下記の取り扱いを必ず守ってください。
・ガス漏れに気付いたときは絶対に火をつけない（使用中のときはすぐに火を消す）
・点火時及び燃焼中以外はガス調節ツマミを「ＯＦＦ」の方向に閉める
・ホース表面がひび割れたものは使用しない
（破れた場合は、ホースを交換してから使用してください）

●やけどや火災の原因となりますので下記の取り扱いを必ず守ってください。
・風の強い時は使用しない
・可燃物（紙や油等の燃えやすいもの）や引火物（ガス・灯油・塗料等）の近くで使用しない
・点火時及び使用中に火口をのぞき込んだり人に向けたりしない
・使用の際は消火器や水を入れたバケツなどを用意する
・火がついている場所から離れない
・火をつけたまま持ち運んだり投げたりしない
・使用中や使用直後は、バーナー及び接手が高温になっているので手などで触れない



燃焼中は放置厳禁

やけどに注意

●ボンベバルブ口にホースの先端をしっかりと取り付けてください。（**ガス漏れ注意**）



## 製品取扱上の注意

### 注意

衝撃を与えない事

●ボンベは必ず正立の状態で使用してください。寝かした状態等で使用すると炎が異常に大きくなり、大変危険です。
●製品に強い衝撃を与えないでください。火口や接手等の故障の原因となります。
●ホースを引きずって使用しないでください。ホースが破れる原因となります。
●圧電点火装置付（Ａ－７・Ａ－８）は空気孔を手などで塞がないでください。正常な燃焼が得られなくなります。
●室内や狭い場所での使用は、一酸化炭素中毒や酸欠の原因となりますので、換気に十分注意してください。
●Ａ－７・Ａ－８は、圧電点火装置が雨等で水濡れすると、点火しなくなる場合があります。
●作業終了後、消火確認を必ずおこなってください。

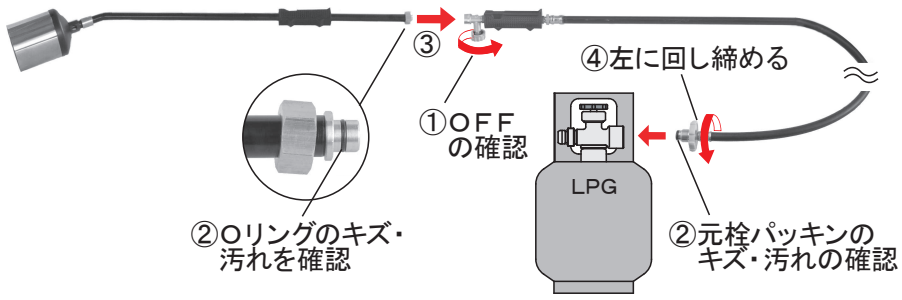
## 故障・異常の見分け方

| 原因＼現象 | 点火しにくい | 炎が弱くなる | 炎が突然消える | 炎が消えない | ガスの臭い（ガス漏れ） | 処置方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ガス圧が高い | ● | | ● | | | ガス調節ツマミでガス量を調節して使用する |
| ノズルが詰まっている | ● | ● | | | | ノズルの穴を掃除する |
| ボンベ内のガスが少ない | ● | ● | | | | ボンベをガスの充填されているものと取り替える |
| ガス調節ツマミの開きすぎ | ● | | | | | ニードルを少し「ＯＦＦ」の方向に回す |
| ボンベが冷えている | | ● | | | | ボンベの温度の回復を待つ |
| バルブの故障 | | | | ● | ● | ボンベバルブを閉じて火を消すその後修理を依頼する |
| 元栓パッキンの破損 | | | | | ● | 部品を取り寄せ交換する、または修理を依頼する |
| 接手Ｏリングの破損 | | | | | ● | 修理を依頼する |
| ガス調節ツマミの破損 | | | | | ● | 修理を依頼する |
| ホース握りとバルブ部のネジの緩み | | | | | ● | 修理を依頼する |
| 圧電点火装置の故障（A–7・A–8のみ） | ● | | | | | 修理を依頼する |
| 電極がずれている（A–7・A–8のみ）（「日常の点検・手入れ」を参照） | ● | | | | | 修理を依頼する |

点検時、分解はしないでください。ガス漏れなどを起こし、思わぬ事故につながる恐れがあります。
● 火口先端部が赤熱したり、黒いすすが付くのは故障ではありません。

## ① 組 み 立 て

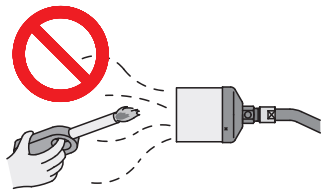
① ガス調節ツマミが「ＯＦＦ」の方向に閉まっていることを確認します。
② 接手Ｏリング・元栓パッキンにキズや汚れがないことを確認します。
③ 接手をバルブに挿入し、ジョイントナットを締めて固定します。
（締め付ける際、接手（接手握り）を持ち、スパナでジョイントナットを増し締めしてください。）
④ ホース先端をボンベバルブ口に取り付け、ホースハンドルを左に回し締めて固定します。（ネジは左ネジです。ねじ込みの際はご注意ください。）
⑤ 取り付け後、接手（接手握り）とホース握りをつかみ、ガタつきがないか確認してください。ガタつく場合は、再度締め直してください。




## ② 点　　火

① ボンベバルブを開き、ボンベバルブ口、ホース等からのガス漏れがないことを確認してください。（ガス漏れのある場合は、おもて面の「故障・異常の見分け方と処置方法」を参考に処置してください。）
② ガス漏れがなければガス調節ツマミを「ＯＮ」の方向に約１０° 開き、火口よりライター等で点火します。
圧電点火装置付（Ａ－７・Ａ－８）の場合は点火ボタンを引いて点火します。
圧電点火装置付（Ａ－７・Ａ－８）はガス噴出量が多いと点火しにくくなりますので、ガス調節ツマミを開きすぎないようにしてください。
③ 火力はガス調節ツマミで調節します。

⚠ ガス調節ツマミを開けたまま点火せずに長い時間ガスを噴出していますと、ノズルが凍結することがあります。ガス調節ツマミを開けたら速やかに点火してください。

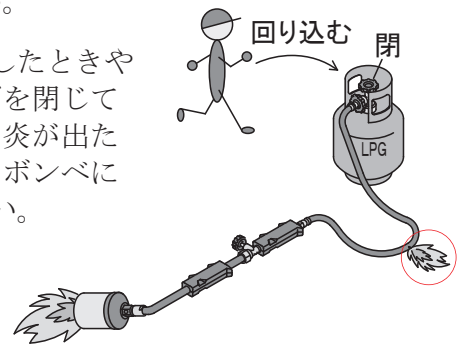

バーナー正面からの点火禁止

⚠ 点火をするときはライター等を横下部から近づけて点火してください。
バーナーの正面から点火しますと、火炎によりやけどします。



⚠ ボンベの圧力が高くなったり、ガスの噴出量が多すぎると、場合によっては失火します。ご注意ください。

⚠ 万一、燃焼中に異常音、異常臭などがしたときや緊急の場合は、慌てずにボンベバルブを閉じてください。ホースの破れたところから炎が出た場合は、炎の出ている方と反対側からボンベに近付きボンベバルブを閉じてください。
バーナー部が冷めてからおもて面の「故障・異常の見分け方と処置方法」を参考に処置してください。




## ③ 消　火 ～　保　管

〈作業を一時中断する場合〉
① ガス調節ツマミを「ＯＦＦ」の方向にゆっくりと回して閉めてください。

〈作業を終了する場合〉
① ボンベバルブを閉めてください。
② 火が完全に消えるのを待ってください。
（ホース内のガスを燃焼させることでホース内のガスを抜きます。）
③ ガス調節ツマミを閉めてください。
④ ホースのハンドルを右に回して緩め、ボンベバルブの口からホースを取り外します。
圧電点火装置付（Ａ－７・Ａ－８）は消火時に空気孔から一瞬ですが、炎が出ることがありますので、空気孔を手などで塞がないでください。
（消火時に空気孔から炎が出るのは異常ではありません。）

● 長時間使用しない場合
ボンベからホースを取り外し直射日光のあたらない屋内で保管してください。

❗ ホースは必ずホース内部のガスを抜いてから保管してください。
ホース内部にガスが残ったまま長期保管しますと、ガスの中に含まれる着臭剤が固形化し、ノズルの詰まりの原因となります。
〈抜き方〉･･･❶ボンベバルブを閉じ、火が完全に消えていることを確認します。
❷ガス調節ツマミを開きます。
❸１分程してからホースを取り外し、ガス調節ツマミを閉じて収納します。

⚠ ガス抜き作業は、必ず火気がなく風通しの良い所でおこなってください。

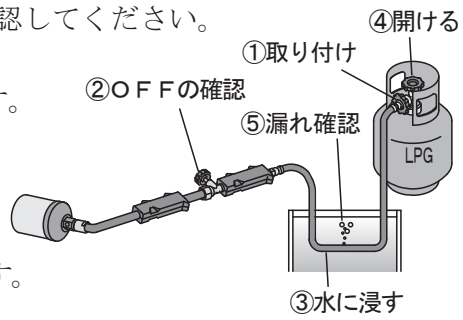


## 日常の点検・手入れ

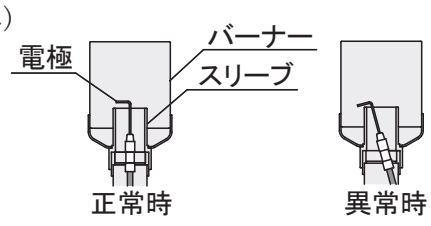
❗ 必ず製品が十分に冷めた状態でおこなってください。

〈ホースの点検〉
ホースに亀裂、磨耗、破損等の異常がないことを確認してください。
異常がある場合、燃料が漏れ、やけどや火災の原因となり危険です。亀裂、破損等は次の要領で確認してください。

① ボンベバルブのホース口にホースのハンドルを左に回して締め固定します。
② ガス調節ツマミを「ＯＦＦ」の方向に閉めます。
③ ホース部分を水に浸します。
④ ボンベバルブを開きます。
⑤ ホースにヒビや破れがないか確認します。
（漏れの無いことを確認します）
⇒ヒビや破れのある場合は部品交換をしてください。
※ホース外面にプリッキング加工（微細な針孔）が施されている為、漏れ確認の際、極微量の気泡が発生する事がありますが、しばらくして止まる様なら異常ではありません。




〈圧電点火装置の点検〉（Ａ－７・Ａ－８のみ）
① バルブからバーナーを外します。
② 電極から火花が飛ぶか確認します。
火花が飛ばない場合や電極がずれている場合は修理を依頼してください。

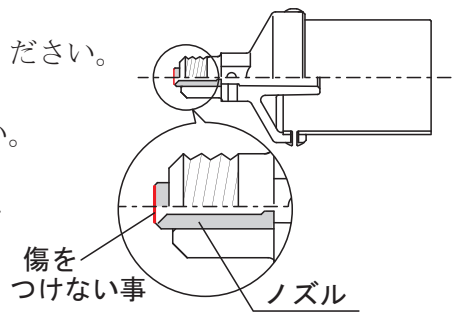



〈ノズルの掃除方法〉
① バーナーをスパナ等で接手から取り外します。
② ノズルの穴を掃除します。
エアー等を通しノズル穴の汚れを取り除いてください。
縫い針等の硬いものでノズルの掃除をすると穴径が広がってしまう可能性がありますのでご注意ください。
③ **手で**バーナーと接手を取り付けます。
手で軽く当たるところまでねじ込んでください。
④ スパナ等で**約１/４回転**締め込みます。

⚠ スパナ等で締め込みすぎないでください。故障の原因となります。

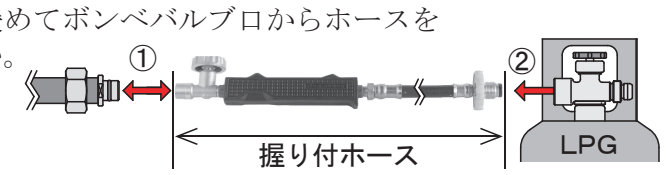
⚠ ノズルの右図赤色部分に傷をつけないでください。ガス漏れの原因となります。

※下半分は断面図です

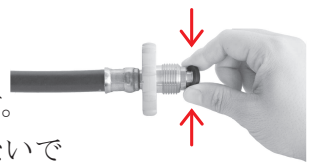





〈握り付ホースの交換〉
① 接手のジョイントナットを緩めてバルブから接手を取り外してください。
② ホースハンドルを緩めてボンベバルブ口からホースを取り外してください。




〈元栓パッキンの交換〉
① ボンベバルブ口からホースを取り外します。
② 元栓パッキンを取り替えます。
元栓パッキンは、指でギュッとつぶすようにつまむと取り外しやすくなります。



⚠ 取り外した元栓パッキンは、絶対に再使用しないでください。ガス漏れの原因となります。

⚠ 故障や破損など不具合だと思われる製品は使用しないでください。
思わぬ事故につながります。不具合の際は、弊社にて修理対応させていただきます。
（出荷できる部品もあります。おもて面の「各部の名称」（赤字で表記の部品）をご確認ください。）

お買い上げいただきました製品は万全を期していますが、
点検で不備な点、及び製品について不具合や不明点があった場合、
また修理をご依頼の際はお買い求めになった販売店・代理店または
弊社（０１２０－７０７１２０）へご連絡ください。

生産物賠償責任保険（ＰＬ保険）付
MADE　IN　JAPAN

Since 1937
SAKAEFUJI
榮製機株式会社
〒441-0105　愛知県豊川市伊奈町佐脇原68
TEL (0533) 73-1190 (代) ・FAX (0533) 73-1196
http://www.sakae-seiki.co.jp/
E-mail:info@sakae-seiki.co.jp

2018/9-1